

## 参 考 文 献

### < 報告書全体 >

中央防災会議 東海地震に関する専門調査会,

<http://www.bousai.go.jp/jishin/chubou/tokai/index.html>

中央防災会議 東南海、南海地震等に関する専門調査会,

[http://www.bousai.go.jp/jishin/chubou/nankai/index\\_nankai.html](http://www.bousai.go.jp/jishin/chubou/nankai/index_nankai.html)

中央防災会議 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に関する専門調査会,

<http://www.bousai.go.jp/jishin/nihonkaikou/index.html>

### < 第Ⅱ章 >

北海道(1996) 北海道における想定地震津波に関する調査研究報告書, 平成8年3月.

青森県(1997) 青森県地震・津波被害想定調査報告書, 平成9年3月.

岩手県(2006) 岩手県地震・津波シミュレーション及び被害想定調査に関する報告書(概要版),  
平成18年2月改定.

宮城県(2004) 宮城県地震被害想定調査に関する報告書, 平成16年3月.

秋田県(1997) 秋田県地震被害想定調査報告書, 平成9年3月.

山形県(1996) 山形県津波災害対策基礎調査報告書, 平成8年2月.

福島県(1997) 平成8年度 福島県地震・津波被害想定調査一報告書一, 平成9年3月.

茨城県(1997) 平成8年度茨城県地震被害想定調査報告書, 平成9年3月.

千葉県(1992) 直下型地震等対策調査報告書, 平成4年3月.

千葉県(1993) 直下型地震等対策調査報告書, 平成5年3月.

東京都(伊豆諸島)(2004) 津波浸水予測調査報告書(伊豆諸島), 平成16年6月.

東京都(小笠原諸島)(2005) 津波浸水予測調査報告書(小笠原諸島), 平成17年2月.

神奈川県(1999) 神奈川県地震被害想定調査報告書、同手法編報告書, 平成11年3月.

新潟県(1998) 新潟県地震被害想定調査報告書, 平成10年3月.

富山県(1998) 地震調査報告書, 平成10年3月.

石川県(1998) 石川県地震被害想定調査報告書(概要版), 平成10年3月.

福井県(1999) 福井県地震被害予測調査報告書, 平成9年3月.

静岡県(2001) 第3次地震被害想定結果, 平成13年5月.

愛知県(2003) 愛知県東海地震・東南海地震等被害予測調査報告書一平成14年度版一, 平成15年3月.

- 三重県(2005) 三重県地域防災計画被害想定調査(概要版), 平成17年3月.
- 京都府(1998) 京都府地震被害想定調査報告書, 平成10年3月.
- 大阪府(1997) 大阪府地震被害想定調査報告書, 平成9年3月.
- 兵庫県(2000) 兵庫県沿岸域における津波被害想定調査, 平成12年3月.
- 兵庫県(2001) 兵庫県沿岸域における津波被害想定調査概要報告書, 平成13年3月.
- 和歌山県(2006) 和歌山県地震被害想定調査報告書(概要版), 平成18年3月.
- 鳥取県(2005) 鳥取県地震防災調査研究報告書, 平成17年3月.
- 島根県(1997) 平成8年度 島根県地震被害想定調査業務報告書, 平成9年3月.
- 岡山県(1995) 岡山県地震被害想定概要調査業務報告書, 平成7年12月.
- 広島県(1997) 広島県地震被害想定調査報告書(平成7・8年度), 平成9年3月.
- 山口県(1997) 被害想定報告書, 平成9年3月.
- 徳島県(2004) 平成15年度 徳島県津波浸水予測調査報告書, 平成16年3月.
- 香川県(2005) 香川県南海地震被害想定調査の概要, 平成17年3月.
- 愛媛県(2002) 地震被害想定調査概要版報告書, 平成14年3月.
- 高知県(2000) 高知県津波防災アセスメント調査事業報告書, 平成12年3月.
- 福岡県(1997) 地震に関する防災アセスメント調査報告書, 平成9年12月.
- 佐賀県(1997) 震災等被害シミュレーション調査報告書, 平成9年3月.
- 長崎県(2006) 長崎県地震等防災アセスメント調査報告書, 平成18年3月.
- 大分県(2004) 大分県津波浸水予測等調査, 平成16年3月.
- 大分県(2007) 大分県地震被害想定調査, 平成19年3月.
- 宮崎県(1997) 宮崎県地震被害想定調査報告書, 平成9年3月.
- 鹿児島県(1997) 鹿児島県地震被害予測調査報告書, 平成9年3月.
- 沖縄県(1997) 沖縄県地震被害想定調査報告書, 平成9年3月.
- 相田勇(1977) 陸上に溢れる津波の数値実験—高知県須崎および宇佐の場合, 地震研究所  
彙報, 52, pp. 441-460.
- 岩崎敏夫・真野 明(1979) 明治29年山田湾における津波の数値解, 第16回自然災害総合  
シンポジウム論文集, pp. 281-282.
- 小谷美佐・今村文彦・首藤伸夫(1998) GIS を利用した津波遡上計算と被害推定法, 海岸  
工学論文集, 45, pp. 356-360.
- 本間仁(1940a) 低溢流堰堤の越流係数, 土木学会誌, 第26巻, 6号, pp. 635~645.
- 本間仁(1940b) 低溢流堰堤の越流係数, 土木学会誌, 第26巻, 9号, pp. 849~862.

宮野道雄・呂恒儉(1992) 既往の災害調査に基づく地震時の人的被害に関する検討, 地域安全学会論文報告集.

首藤伸夫(1988) 津波災害の変遷と対策上の問題点, 第 35 回海岸工学講演会論文集, pp. 237-241.

宇佐美龍夫(2003) 最新版日本被害地震総覧[416]-2001, 東京大学出版会, pp. 605.

全国消防長会(1994) 平成5年(1993年)北海道南西沖地震調査報告書.

#### < 第IV章 >

UNESCO(1997) IUGG/IOC Time Project, IOC Manuals and Guides, 35.

#### < 第V章 >

阿部勝征(1989) 地震と津波のマグニチュードに基づく津波高の予測, 地震研究所彙報, vol. 64, pp. 51-69, 1989.

羽鳥徳太郎・相田勇・岩崎伸一・日比谷紀之(1981) 尾鷲市街に遡上した津波の調査—1944年東南海・1960年チリおよび1854年安政津波, 地震研究所彙報, vol. 56, pp. 245-263.

羽鳥徳太郎・相田勇・小山盛雄・日比谷紀之(1982) 大船渡市街地に遡上した津波の調査—1960年チリおよび1933年三陸津波, 地震研究所彙報, vol. 57, pp. 133-150.

羽鳥徳太郎・相田勇・坂下至功・日比谷紀之(1983) 和歌山県湯浅・広に遡上した南海道津波の調査—1946年南海道および宝永・安政津波について—, 地震研究所彙報, vol. 58, pp. 187-206.

本間仁(1941) 低溢流堰堤の流量係数, 土木学会誌, vol. 26, No. 6, pp. 635-645.

加藤史訓・福濱方哉・藤井裕之・高木利光・児玉敏雄(2007) 堤防高を考慮した実効な津波被害想定手法, 海岸工学論文集, vol. 54, pp. 261-265.

気象庁観測部地震課(1977) 津波予報業務の変遷と現状, 測候時報, vol. 44, pp. 123-170.

国土庁・気象庁・消防庁(1997) 津波災害予測マニュアル, p. 56.

成瀬進・北原政宏(1998) 海岸事業の費用対便益分析について, 海岸工学論文集, vol. 45, pp. 1231-1235, 1998.

Manshinha, L., and D.E. Smylie (1971) The displacement fields of inclined faults, BSSA, 61, 1433-1440.

Okada, Y. (1985) Surface deformation due to shear and tensile faults in a half-space, BSSA, 75, 1135-1154, 1985.

Okada, Y. (1992) Internal deformation due to shear and tensile faults in a half-space, BSSA, 82, 1018-1040.

- 佐藤良輔編(1989) 日本の地震断層パラメータ・ハンドブック, 鹿島出版会.
- 舘畑秀衛(1998) 津波数値計算技術の津波予報への応用, 月間海洋号外, No. 15, pp. 23-30.
- The Tsunami Risks Project (2000)  
<http://www.nerc-bas.ac.uk/tsunami-risks/html/Phy3Impact.htm>
- 戸引勲・押田和雄・額田恭史・柴木秀之(2000) 津波高データベースと浸水域簡易推定について, 海岸工学論文集, vol. 47, pp. 386-390.
- Yoshinobu Tsuji, Yuichiro Tanioka, Hideo Matsutomi, Yuichi Nishimura, Takanobu Kamataki, Yoshikane Murakami, Tsutomu Sakakiyama, Andrew Moore, Guy Gelfenbaum, Sindhu Nugroho, Budi Waluyo, Inyoman Sukanta, Tahmat Triyono, and Yuichi Namegaya (2006) Damage and Height Distribution of Sumatra Earthquake-Tsunami of December 26, 2004, in Banda Aceh City and its Environs. *Journal of Disaster Reserch*, vol. 1, pp. 103-115.